

『 腰椎椎間板ヘルニアの治療について 』

脊椎脊髄外科 部長 熊野 洋



脊椎脊髄外科を継いで1年となりました。今回は腰椎椎間板ヘルニアの治療についてです。

腰椎椎間板ヘルニアとは椎間板内の髓核というゼリー状の組織が外に飛び出した状態です。発症すれば腰痛はもとより神経と接触すれば下肢のしびれや痛み、筋力低下、感覚が鈍くなるなどの症状が出ます。多くは日々の生活や仕事での椎間板への負担の蓄積により発症します。長時間の座った姿勢、中腰での作業で多いといえます。20代から40代で多く発症するため仕事に支障を来します。ほかにも喫煙や遺伝的な要素もあると言われています。

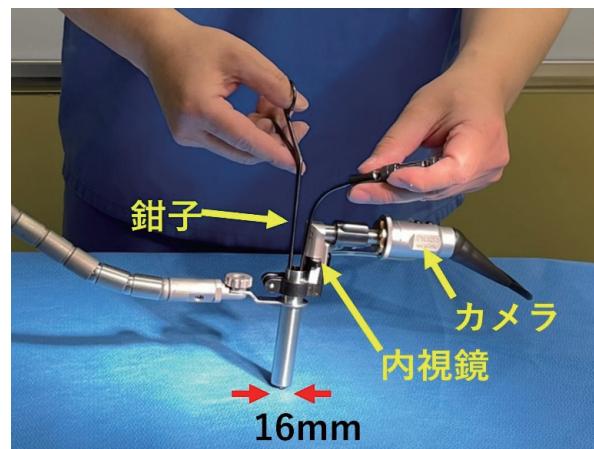
診断はレントゲンだけではわかりません。MRIが必要です。ほかの疾患がないか調べるために脊髄造影検査やCT検査が必要なこともあります。

症状が痛みやしびれだけなら痛み止めやブロック注射などの薬物治療を開始しますが、効かなければ従来は手術という選択肢をとることが一般的でした。しかしあ数年前からヘルニコアという髓核を溶かす酵素を椎間板内に注入するという治療が始まりました。これはレントゲンを見ながら腰に注射をするだけなので体への負担は比較的軽いものとなります。研究では手術が必要と言われた患者さんのうち6割が手術を受けなくて済んだという報告があります。効果は注射後3-4週間で現れます。ただしこの注射は2回打つとアレルギー反応の可能性があり一生に1回だけという制限があります。

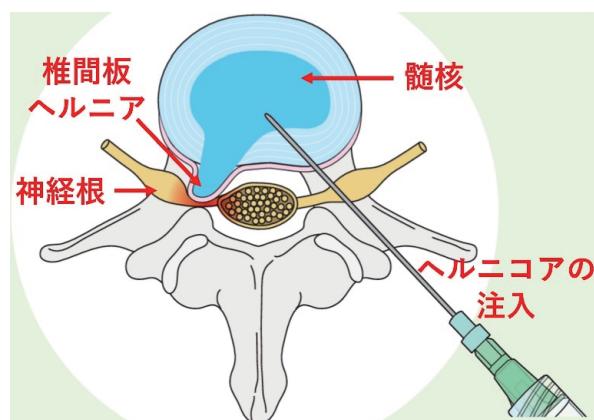
また、それでも改善せず手術を選択せざるを得ない場合でも脊椎内視鏡という全身麻酔で行う低侵襲の手術があります。約2cmの傷に金属の筒を通してその内部で椎間板ヘルニアを取り除きます。従来の大きく切る手術と比較して術後の痛みが軽減します。術後は約4-5日程度で退院される方が多いです。

腰椎椎間板ヘルニアは一般的には予後の良い疾患ではありますが、足の力が入らない、膀胱直腸障害(便失禁や尿漏れなど)などの症状がでたら早期の治療が必要な場合もありますので、専門医の受診をお勧めします。

当科ではブロック注射(仙骨硬膜外ブロックと神経根ブロック)、ヘルニコア注射、脊椎内視鏡手術を行うことができます。治療法の選択については当科の専門医が対応致しますので、御相談・御受診くださいようお願い申し上げます。



※脊椎内視鏡手術



※ヘルニコアを注入する場所